

児童発達支援センターどれみ 令和6年度 支援プログラム (児童発達支援)

作成年月日 令和7年1月15日

営業時間	9:00~17:00 (事業所開所時間) 集団療育: 10:00~12:45 14:00~15:00 15:30~16:30 個別 (保育・PT・OT・ST): 14:00~以降各1時間 17:00 終了		送迎について	子どもさんについて日々の健康状態など情報共有を大切にしているの で、基本は保護者送迎をお願いしています。(家庭のやむを得ない事情が ある時のみ送迎の利用が可能です)		
法人理念	だれもが 人として大切にされ地域で自分らしくいきるために私たちは利用者はじめだから信頼される支援を行い、安心して暮らせる地域社会の実現に貢献します。					
支援方針	私たちは、一人一人の命を大切に、より豊かな人生を送るために子どもたちに遊びを伝えます。					
支援内容						
クラス名	だるま (10:00~12:45)	仔牛 (10:00~12:45)	ぺんぎん (10:00~12:45)	りんご (14:00~15:00)	ワニワニ (15:30~16:30)	
本人 支援	健康 生活	睡眠・食事・排泄のリズムを把握し、本人のリズムに合わせて活動します。 生活動作を見せたり職員と一緒にやってみたり、基本的な生活動作を伝えます。	睡眠・食事・排泄のリズムが確立するよう、プログラムに沿った活動を促します。 本人ができる生活動作を見守り、難しい所は具体的動作などで支援をしていきます。	睡眠・食事・排泄のリズムを把握し、本人のリズムに合わせて活動します。 本人のできる生活動作を見守り、難しい所は具体的動作を本人と一緒に取り組みます。	生活リズムを整え、午後からも活動ができる体力をつけていきます。 身につけることができている生活動作を定着できるよう、時間をかけて丁寧に取り組みます。	生活リズムを整え、午後からも活動ができる体力をつけていきます。 その日の身体の調子に気がつけるように、活動などを通して促します。
	運動 感覚	砂場遊びや片栗粉遊びを通して、様々な感覚を経験していきます。 歩く・走るなどの基本動作が十分に発揮できる散歩や粗大運動遊びを中心に取り組みます。	感覚遊びを通し苦手な感覚や好きな感覚を本人がからだで感じることを促します。 活動に歩く・走る・跳ぶの基本動作を取り入れ様々な姿勢に対応できる身体を作ります。	砂場遊び・片栗粉遊びなどの手を使った遊びを中心に、好きな感覚を十分に取り入れます。 時間をかけて歩く・走る・跳ぶの基本動作を取り入れ様々な姿勢に対応できる身体を作ります。	歩く・走る・跳ぶ・止まるを遊び (トランポリンなど) の中で経験し、椅子に座って活動する等生活を楽しめる身体づくりをします。 個別で好きな感覚を十分に楽しむ機会を作ります。	歩く・走る・跳ぶ・止まるを遊び (トランポリン等) の中で経験し、椅子に座って活動するなど生活を楽しめる身体づくりをします。 また、ボディイメージの確立ができるように支援します。
	認知	「触る・見る・聞く・味わう・傾く・まわる」といった体験を十分に重ね、生活の中にあるも	感覚を刺激する様々な遊びの体験を十分に重ね、身体を使って知る経験を重ねます。また、自	「触る・見る・聞く・味わう・傾く・まわる」といった体験を十分に重ねられるよう、感覚遊	いつもと同じスケジュールで過ごす中で、時間の流れを意識できるよう支援します。砂場遊び	いつもと同じスケジュールで過ごす中で、時間を意識して生活できるよう支援します。ルール

児童発達支援センターどれみ 令和6年度 支援プログラム (児童発達支援)

作成年月日 令和7年1月15日

<p>行動</p>	<p>のごとを知る経験を重ねます。支援者との遊びや生活を通して、生活に関わる物の扱い方を見たり、経験をしたりする支援を行います。</p>	<p>身の感情に気づく経験を重ねます。支援者との遊びや生活を通して、道具の扱い方を見て、経験をしたりする支援を行います。</p>	<p>びや生活場面を丁寧に送ることができるよう支援をします。支援者との遊びや生活を通して、生活に関わる物の扱い方を見たり、経験をしたりする支援を行います。</p>	<p>や色水遊びなどを通して、色の概念や数量の概念の形成を支援します。同年代他児との遊びを通して、知ることの喜びを後押しし、もっとやってみたいという意欲を育てます。</p>	<p>のある遊びを通して、色の概念や数量の概念の形成を支援します。同年代他児との遊びを通して、知ることの喜びを後押しし、もっとやってみたいという意欲を育てます。</p>
<p>言語コミュニケーション</p>	<p>絵本(もこもこ・だるまさんが)やふれあい遊びを通して、言葉の基礎となる、ことばや音に気がつく経験を重ねます。職員と一緒に活動する中で三項関係を築き、共感される経験を重ねます。粗大運動を通して、楽にお話ができる身体づくりしていきます。</p>	<p>絵本(仔牛の春・おいしいおと)や各活動を通して、たくさんしたことばに触れる経験を重ねます。職員と一緒に活動する中で、多くの表現に触れ、共感される経験を重ね、自身の気持ちに気がつくことを促します。身体づくりを通して、本人からの表出・表現を促します。</p>	<p>絵本(もこもこ・だるまさんが)やふれあい遊びを通して、言葉の基礎となる、ことばや音に気がつく経験を重ねます。職員と一緒に活動する中で三項関係を築き、共感される経験を重ねます。粗大運動を通して、楽にお話ができる身体づくりをしていきます。</p>	<p>絵本(りんごかもしれない・ワニワニの〇〇)や各活動を通して、多くのことばに触れる経験を重ね、ことば遊びの世界でも楽しめる力をつけます。他児との関わりの中で「気持ち」など目に見えないものを表現する力を養います。</p>	<p>絵本(りんごかもしれない・ワニワニの〇〇)や各活動を通して、多くのことばに触れことば遊びの世界でも楽しめる力をつけます。他児との関わりの中で「気持ち」を表現する経験を重ね他者と上手に関われるよう支援をしていきます。</p>
<p>人間関係 社会性</p>	<p>環境に配慮された場で職員と一緒に活動する経験を重ね、安心感を持ち他者と関わる経験を重ねられるよう支援します。一人遊びの時期を大切に考え、十分に遊びが経験できるよう、発達特性に配慮された、おもちゃなどを使用していきます。</p>	<p>職員や他児と一緒に活動する経験を重ね、安心感を持ちながら集団での生活を経験していきます。集団活動を通して、一人遊びから並行あそびへ移行を促し、他者を意識しながら生活ができる基礎を育てます。また、鯉のぼり制作など季節を感じる活動も重ねていきます。</p>	<p>環境に配慮された場で職員と一緒に活動する経験を重ね、安心感を持ち他者と関わる経験を重ねられるよう支援します。一人遊びの時期を大切に考え、十分に遊びが経験できるよう、発達特性に配慮された、おもちゃなどを使用していきます。</p>	<p>集団活動を通して、並行あそびから連合あそび(ブロック遊びなど)へ移行し、大人や他児と共に活動できるよう支援します。季節ごとの遊びを通じて他者と一緒に活動することで得られる達成感など、感情の動きに気がつき、表現し、他者とのより良い関わりができるよう支援していきます。</p>	<p>集団活動を通して大人や他児と活動する連合あそび(ブロック遊びなど)を重ね、ルールのある遊びを経験していきます。他者と一緒に活動することで得られる達成感や自身の感情の動きに気がつき、表現し、他者とのより良い関わりができるよう支援していきます。</p>

児童発達支援センターどれみ 令和6年度 支援プログラム (児童発達支援)

作成年月日 令和7年1月15日

共通項目	
地域連携 地域支援	名張市の母子保健事業・子ども発達支援センターとの協働をはじめて15年以上経過しています。名張市より個別乳幼児特別支援事業の一部事業委託を受け、児童発達支援センターとして、地域の保育所・こども園・幼稚園等の子どもさんの日常生活拠点として長く過ごす場の先生方と協働して(園への巡回・見学受け入れ・計画書作成会議への参画等)子どもさんの支援にあたっています。必要に応じて、医療機関等とも連携し多角的な視点で子どもさんの成長を支えることができるようにしています。
移行支援	基本的には並行通園の方が多くですが、乳児期から利用されている方には地域の保育所等への移行の際には、名張市の関係機関と連携し会議を開き、入園前には見学に来ていただき、支援の要点などをお伝えしています。また、療育を利用する前のクラスとして「びゅあるーむ」を月1回実施し、参画する保護者の方の就園についての相談等を受け付けています。
家族支援	令和6年度よりペアレントトレーニングを開始しております。専門の講師を招いて実施しております。また、年2回たんぼぼ広場の開催を実施しております。保護者と子どもたちが一緒に参加する広場です。各回、子どもさんと生活する中で役立つ情報や親子でできるあそびの紹介をしています。毎月1週間母子通園週間を設けています。その際に子どもさんの普段の姿を通して、保育士など療育に従事する職員への質問を受け付けており、個別でお答えできるように対応しています。
職員の質の向上	毎月1回保育士については子どもの発達についての研修を実施しています。医療専門職については、県立病院とも連携し実地研修への派遣をしております。 虐待防止研修・衛生についての研修・防災研修等、子どもさんをお預かりするにあたり、安全に配慮した運営ができるよう研修を実施しております。
主な行事等	保護者通園週間(毎月1週間)・たんぼぼ広場・冬のお楽しみ会・つぼみ展 (子どもさんたちの特性に配慮し日常生活を大切にする観点から、当センターでは大きな行事ごとについてはできるだけ少なく開催するようにしています)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 名張育成会 児童発達支援センターどれみ		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日 ~ R7年 12月 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	R6年 4月 1日 ~ R7年 12月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児の健康や発達の状態・課題について、保護者の思いと支援者が共通理解をしたうえで、支援をしている。	発達段階や特性の理解を高めるための研修の受講し、事例検討などを定期的実施している。利用児の健康状態や、家庭環境についても気を配り、クラスを細かく分けて、子どもの状態に合わせる工夫をしています。半年ごとに子どもの発達に合わせて、クラス変更の必要性、他児との関わり、保護者の送迎の状態等々を考慮して見直しを行っている。	現状の取り組みを丁寧に継続していきたいと思います。
2	センター機能により、子どもたちの状況を各専門職員が多角的に把握しながら療育に反映ができています	毎朝の申し送りや、個別支援会議・モニタリング会議に療育に関わる職員が参加して、子どもの姿の変化を追い、都度課題を確認して実践に反映できるようにしている。	現状の取り組みを丁寧に継続していきたいと思います。
3	センターとして子どもたちへの支援をして約13年が経過しています。子どもの発達を支える専門機関として蓄積した発達支援のノウハウを活かしながらプログラム等の実践(保護者支援を含めた)をしている。	相談支援事業からの引継ぎを受け、新規面談時には、毎回2時間程は必ずかけ、紙面を用いながら説明しています。支援が必要な子育てにご苦労されてきた保護者の方々が、安心して療育をスタートできるように利用料金や個別支援計画書の事等を理解していただけるように工夫している。必要に応じて外部の専門家に意見を聞き、より深くサポートができるようにしている。	現状の取り組みを丁寧に継続していきたいと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の異動・退職などでの質を一定基準で担保を図る事が難しい。	配置基準の職員数は足りているが、利用児個々に目が向いてしまう傾向があり、子どもたちを集団として纏めていくことへの意識が薄いため、療育の中で個別対応に力を注いでしまう。そのため、職員がバタバタと支援しているように見受けられる。職員間で、集団を意識することで連携する力を深めて、意思疎通を図る等のスキル向上が必要とされる。	保育案を作成する時、療育内での月に一度の会議、日々の療育前後の話し合いを今後も続ける。その中で集団を意識する場面、個別で関わる場面を職員がイメージして伝え合い、自分のイメージを他職員に伝えて共有することを繰り返す。職員それぞれが、自分の役割を明確にして、共有共感できる場面を過ごすことを重ねる。
2	文書作成に慣れていない職員も多いため、文書等の作成・発行などに時間がかかっている。	業務に必要な提出資料が多いため、業務量が過多になっている所もあり、一部ICT化を進めているが良さを実感できる所までまだ進んでいない 児童発達支援管理責任者が業務遂行するための時間を計画的に確保することが難しい。	一部会議録等のICT化を進める等、文書作成についての見直しを実施していきます。
3	児童発達支援として保護者支援の力が弱い。 保護者と利用児のニーズを把握して支援内容を確認する等、支援に取り組む姿勢が未熟で、センターとしての保護者支援機能を求められていることに対する認識が弱い。	センターの中の児童発達支援事業として、求められる機能が多岐にわたっており、保護者支援は同様に重要なものとしての認識はある。保護者像も多様化しているので対応が一段と難しくなっている。	保護者や子どもの様子から考える経験をしてもらったり、1つの子どもの行動に疑問を持ち「何故だろう。」と、疑問や興味を持てるように、事例検討や療育研修の機会を通して、1つずつ、職員に伝える。また、事例検討で学んだことを現場の中に活かすことも経験していけるように、OJT等を実施してスキルアップを目指す。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センターどれみ

公表日 R7 年 2月 15日

利用児童数 R7 年 12 月 15 日 回収数 36

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	3	0	0	・人数に対して、お部屋は広々としてい ると思う。	ご家族の方を不安にさせてしまい申し 訳ありません。職員の急な病欠等で至ら ない点があったかと思えます。今後は都 度配置が調整できるところはさせてい たたくようにします。
	2 職員の配置数は適切であると思えますか。	26	6	0	3	・配置数に関して先生を気の毒に思うこ とがある。 ・たまに先生が少なくて大変だと思 う。	施設環境については都度職員が整備等 させていたと思いますが、既存の建物 を使用している施設のため一部改修が 難しい箇所もあり、ご不便をおかけし ている所があるかと思えます。申し訳 ありません。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思えますか。	33	1	1	0		施設環境については都度職員が整備等 させていたと思いますが、既存の建物 を使用している施設のため一部改修が 難しい箇所もあり、ご不便をおかけし ている所があるかと思えます。申し訳 ありません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思えますか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思えますか。	35	0	0	0		施設環境については都度職員が整備等 させていたと思いますが、既存の建物 を使用している施設のため一部改修が 難しい箇所もあり、ご不便をおかけし ている所があるかと思えます。申し訳 ありません。
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思えますか。	33	1	1	0	・計画を作るの遅すぎる。	計画をお渡しするのが遅れてしまい申 し訳ありません。各担当職員が確認し てお渡しするようにしている為一部計 画書のご説明に時間がかかってしまっ ておりました。今後はこのプロセスも 見直しできるだけ早くお手元に届け られるように致します。 また、子どもさんの支援に返せるよ うにしています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思えますか。	29	3	0	3		ガイドライン実施以降の説明が一部不 足していた箇所があるかと思えます。 申し訳ありません。今後は分かりやす く提示できるように工夫をさせていただきます。
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 えますか。	33	0	0	1		ガイドライン実施以降の説明が一部不 足していた箇所があるかと思えます。 申し訳ありません。今後は分かりやす く提示できるように工夫をさせていただきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供 すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思えますか。	22	6	0	7		ガイドライン実施以降の説明が一部不 足していた箇所があるかと思えます。 申し訳ありません。今後は分かりやす く提示できるように工夫をさせていただきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思えますか。	33	0	0	1	・計画が遅いからその時どんな支援か分 からない。	都度、計画を見直しているためお渡し する機会を逸してしまったためと思わ れます。申し訳ありません。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思えます か。	22	6	0	7		年間を通して実施する活動と季節ご とに変えるプログラムがあります。利 用される皆さんに分かりやすく提示 できるように検討させていただきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子ども と活動する機会がありますか。	該当なし（並行通園児・就園年齢に達していないため）					
保護 者へ の説 明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	33	1	1	0	・時間をかけて説明してもらえた。 ・ごはん代を保育費でも払っていて、2 重に取られているので負担が大きい。 なんとかして欲しい。	申し訳ありません。費用負担につ いては、保育所とは異なる施設とな りますのでお支払い頂くこととなり ます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	34	0	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	35	0	0	0	・ファミリーミーティングで他のお母 さんたちの思いや考えを知り、自分 の悩みを話すこともできたので良 かった。 ・月に1回保護者通園があり、セン ターでの様子が見れるのがありが たい。	保護者の皆さんができるだけ参加し て頂けるように日程の調整をさせて いただいております。今後もご参加 いただけますと、職員も子どもさん の様子を知る良い機会となり、より 良い療育に繋がっていくと考えて おります。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達 の状況について共通理解ができていると思えますか。	30	4	1	0	・毎回、その日の様子を細かく教 えていただいている。 ・送迎を祖母にお願いしているので 中々直接お話しできないが、先日お 帳面に急に突進していくことにつ いて、口頭と文面で説明していただき、 また1つ本児について理解するこ とができてよかった。 ありがとうございます。	保護者の皆さんと中々お会いでき ない時もありますが、できるだけ 丁寧に取り組みを重ね、育児を支 援することができればと思ってい ます。また、お声を挙げていただ いたにも関わらず、適切に対応が 来ていなかった旨をお知らせいた だき、お力になれなかった点申し 訳ありません。日々の療育での気 付きの中で、職員間の連携を進め 、このような思いをされることな いよう対応に努めます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	32	2	2	0		・悩んだ時相談しても何も得られ なかった。それ以来不審にしか思 えなかった。
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思えますか。	32	2	2	0			

す	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	4	2	3		保護者会という形で活動が実施されていない所ではありますが、皆さんの日頃の思い等が繋げられるよう、企画を検討させていただきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	2	1	1	・気になることがあれば、相談させてもらい、丁寧に対応していただいている。	ありがとうございます。今後子どもさんの姿を通して、保護者の皆様の困りごと等に対応させていただくようにします。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32	2	1	1	・配慮されていないことがあった。	子どもさんの様子について、一部配慮が足りないところのご指摘について申し訳ありませんでした。以後気を付けてまいります
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31	4	1	0		ブログ等で発信させていただいております。日々の療育に中々ご覧いただけない所もあるかと思えます。参考にして頂けたらと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	1	0	0		今後も個人情報の取り扱いについて注意してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	31	1	1	3		今後も保護者の方に参加して頂くような避難訓練や、安全についての情報を提供できるように定期的の実施してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30	2	0	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	1	1	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	1	1	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	2	1	0	・毎回、通所やセラピーへ行く事を楽しみにし、園のカバンは持たないのにどれみのカバンは自ら持って行く！ ・先生方みなさんの関わりのおかげでのびのび遊んだり療育に参加することが出来ている。	どの子どもさんにとっても安心できる場を提供できるように、環境調整等を今後も丁寧にさせていただくように致します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	2	1	0	・だいぶ慣れてきたが、センターの話をすると元気がなくなる時もあり、もう少し時間が必要なかなと思っている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	2	1	0	・療育を通して、とても子どもが成長し、できることが増えた。先生方が優しく、丁寧に子どもと接して下さるのであけがたいと思っている。 ・大変満足している。分からない事だらけの子育て、発達過程、関わり、行動の理由等何もかも適格に教えてもらい納得して関わられた。本当にありがたい存在だと思っている。 ・楽しく過ごせるように対応していただいている。 ・コードモンで気軽に相談できる様になるとよい。	コードモンの活用については、今後も検討するところです。相談については内容にもよりますができるだけ様々な形でお受けできるように検討させていただきます。 なにより、子どもさんにとって安心できる場所、保護者の方にとって安心して通っていたる場を提供できるよう今後も職員一同で療育の場を作っていきます。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援センターどれみ					
				公表日	7年 2月 17日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	・利用定員が全員集団ではなく、セラピーや個別対応の利用児枠を設けている。	現在の支援を継続できるようにしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	4	・個別対応や環境調整を実施して、対応している。 ・その日の利用児の特性を踏まえて職員配置を行う。	・4対1という基準を満たしていることと子どもたちに必要な支援ができることは別なもので、必要な支援ができる配置をしたい。 ・クラス等の調整も視野に適切な配置ができるよう検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	・無駄な装飾はしないようにしている。 ・視覚的な支援、見える化ができる子どもも見通しをもって生活できるのではと思う。	現在の支援を継続できるようにしていく部分と、視覚支援を一部取り入れる検討をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・子どもの人数や特性に合わせて活動をめている。	・4階は活動の部屋と食事の部屋が同じであるため、今後検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	急な発熱時などだけではなく、子どもの情緒的な状況によっては対応ができるようにしている。	現在の支援を継続していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	・PDCA表を用いて、個別支援・モニタリング会議をしている。	現在の支援を継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・集計後に共有することをしている。	毎年度、年度計画を立てる際には内容を盛り込めるよう事業所内の内容を調整している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・会議等実施しているが、療育に入るなどで個別で把握する時間は設けられていない。	会議や各保育案などを通して、職員の意見を把握できるよう調整していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	・外部評価は実施していない。	今後実施を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・虐待防止委員会の取り組みの中に研修の周知を入れている。	現在の支援を継続していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	今年度は7年2月に予定している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	・面談実施時に聞き取ったニーズを計画書に入れている。	現在の支援を継続していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・個別支援、モニタリング会議を現場職員で行っている。 ・支援計画の内容を把握できていない職員もいると思う。先月から児童発達職員みんな個別支援会議とモニタリング会議を行うようになったのでこれから改善されるようになるのではないかなと思う。	年度途中で改善されたところがあるので、継続して全員が参加できるように調整していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・必要があればその都度変更している。	必要に応じて今後も実施していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・利用児に必要な感覚あそびの中で支援内容を設定している。 ・月1回検討するための研修を実施しています。	・まだガイドラインの内容を追うのに精一杯の状況であり、現在のやり方をもう少し継続する必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	保育案を作成するにあたり、各職員分担して作成したのち、療育に関わる職員で把握できるようにしている。	・毎年同じような内容になっている部分もあるので来年度の計画をする際に改めて考えたいと思う。 ・ただ、子どもたちの特性においては変化のない所も十分残す必要があると考えている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別・集団共に子どもの特性をみてクラス編成を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	・ホワイトボードを使用して可視化している。記録に残し、ファイリングをして他職員が見られるようにしている。	現在の支援を継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	・翌朝の全体職員会議で報告をすることで情報共有をしている。 ・日によるが、スタッフが集まる時間がとりにくい。	ヒヤリハットや事故等は特に何らかの方法で情報共有がなされるよう、今後も工夫をしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・子どもの様子の変化等に気付くまたは振り返られるようにしている。 ・記録等はデータ化し、情報共有しやすくできればと思う。療育・相談・訪問の情報がそれぞればらばらなので、一元化してデータ管理できると良い。それにより集まるのが難しくても、情報が周知しやすいと思う。	ICT化も含め、情報共有の在り方については、調整を検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・児発管が療育の現場に入りモニタリングを行った上で、支援計画書の作成をしている。	現在の支援を継続していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	・児発管が参加している。サービス担当者会議日を早めに教えてもらい、準備しておく。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	・利用児の状態に合わせた各機関関係者と連携をとる。 ・病院関係者は直接やりとりができるようになったらいいと思う。	・各関係機関との連携については関係機関の特性も含め、どのような連携のあり方が良いのか模索していく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	・保育所等訪問支援事業と連携して行っている。	現在の支援を継続していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	・保育所等訪問支援事業と連携して行っている。	現在の支援を継続していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			・法人内のこども園と交換研修を実施している。	現在の支援を継続していく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	7	1		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	1	・管理者が参加している。 ・わからない。	現在の支援を継続していくが、事業所の機能特性上すべての職員が他機関との関わり等を十分にされていないところもあるので、事業所内でも周知していく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			該当なし	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	5	・交換研修が中止になったので、また機会があれば行ってみたい。	・今のところ交流したことがないので、その機会が増えると良い。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0		現在の支援を継続していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	・人数を決めて実施している。	令和6年より実施している為、次年度も継続しての実施をしていけるよう調整していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・新規や継続更新時にその都度紙を用いて説明している。	現在の支援を継続していく部分と、より丁寧な、実施のために必要に応じて家庭とも十分に理解を得ながらの実施をしていきたいと考えている。	
36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	・できるだけ対面にて手渡しで説明できるようにしているが、お会いできない場合は計画書を利用児のカバンに入れ持ち帰ってもらい、電話で説明する。		

保護者への説明等	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・他事業とも連携して保護者の情報交換をしている。 ・十分であるとは言えないため、もっと自己研鑽に励みたい。	
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	・職員によっては内容を十分に把握できていないイベント等があるので、再度年度当初に計画を実施する際に周知をしていきたい。	
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1	・適時対応はできるようにはしている。	・対応が遅れてしまっていることもあるように思う。上司への報告・相談のタイミングで遅れてしまうことがあるが、必要に応じて現場の職員で迅速かつ適切に対応できるようにしたい。
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	・どれみ通信や法人からの手紙をお渡ししている。	現在実施している方法を継続していく。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	書類については保管庫で保存している。	
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	・育成会の行事が担っている。	行事については、利用児が参加しやすいように事前に調整するなど対応している。
非常時等の対応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・職員には周知や研修等を行っている。	月1回の防災訓練（火災・地震等）を実施している。現在の訓練等を継続して実施しいざという際に対応ができるようにしていく。
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	・地震、火事の発生の変化を付けて行う。	
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	・新規面談時に行う。	新規面談時に把握するほか、利用途中で発症等があった際には医師の指示書を頂いてから対応する等、子どもさんの命が守られるよう対応している。
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	・担当者を通し、二重、三重のチェックをしている。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		今年度より安全計画を作成して対応ができています。
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		年2回保護者参加型で避難訓練等について対応ができています。
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・事業所内で月1回ヒヤリハット会議にて検討を実施している。	今後も現在の方法を継続していく。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・事業所内で月1回虐待防止研修にて検討を実施している。	今後も現在の方法を継続していく。
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	・座位保持いすの使用について記載している。	今後も現在の方法を継続していく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 名張育成会 児童発達支援センターどれみ		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		R6年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	162	(回答者数) 55
○従業者評価実施期間	R6年 4月 1日		R6年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	R6年 4月 1日		R6年 12月 13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業開始をして13年目になり、地域の保育所・こども園・幼稚園・小学校・特別支援学校等の関係機関にはある程度事業についてご理解を頂いたうえで訪問ができていく現状がある。	これまで重ねてきた支援があって、各関係機関に受け入れていただいているという意識を持ち仕事をしている。そのため各方面に対してできるだけ途切れることなく、支援ができるよう回数を重ねていけるようにしている。	現在の支援を引継ぎ継続していくことに尽きるかと思いません。
2	多職種での訪問を実施している。その際にはそれぞれの視点で子どもの姿を観察することができている。	子どもたちの発達について実際の保育の場面・教育での場面を共有し、意識的に具体的に伝えられるよう訪問の現地でもすり合わせるなどしている。	今後はより現場の先生方と共有できるような、資料を作成する等工夫をしていきます。
3	センターとして訪問しているので、児童発達支援・相談など子どもたちを支える多機能で情報を収集して、子どもたちの生活支援の場で役立てていただける情報などを共有ができていく。	療育の場面を実際に見たり、療育に時には入って子どもと実際に関わったうえで訪問支援を行うこともある。	現在の支援を引継ぎ継続していくことに尽きるかと思いません。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問について、職員配置上1学期に1回程度の訪問にとどまっている。	多職種での訪問を重視するため、日程調整が難しいことがある。契約数が多いので、まんべんなくという点で行くと学期毎に1回という事になってしまう。	学期ごとにスケジュールを先行して組んでしまうなど、予定の組み方を工夫してみる。より丁寧な支援を実施するため、契約についても一部見直しを検討する必要がある。
2	各訪問を丁寧にしていきたいところもあり、保護者へのフィードバックまでに時間を要してしまうことがあった。	報酬改定に伴う、連携の仕組みの変更などシステムに乗り切れずに始まってしまった感があった。年度途中でも調整が難しく感じていた。	次年度についてはあらかじめ訪問や契約に関わる日程を早期に決定して実施していけるようにしていきたい。
3	より良いフィードバックに繋げるための、資料等が準備ができていない。	現段階でも訪問先の評価が著しく低いわけではないが、多様な訪問先がある中である程度可視化したものを作成する必要があると考えている。	現在、書式について検討しており出来次第活用していきたいと考えています。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センターどれみ

公表日 R7 年 2月 17日

利用児童数 R7 年 12月 20日

回収数 55

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	55	0	0	0		・面談の際にはお時間をいつもいただきありがとうございます。今後も丁寧に説明をさせていただき、子どもさんの支援ニーズに沿うことができるよう、支援を実施してまいります。
	2 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	52	2	0	1	・その時の状況や内容を細かく説明いただけた。	・一部専門性にご満足いただけなかったところのご指摘については、職員の専門性の不足と利用される子どもさんのニーズ・家族のご希望が十分聞き取りができてなかったことによるものとも考えております。
	3 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	45	8	0	2	・人数が限られているため、回数が減ることもあると聞いている。	・十分とは言えない所がある。
	4 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	51	3	0	0		・保護者のニーズが入所したときから更新されないまま表記されている。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	51	3	1	0		・今年度、初旬に面談をさせていただいたご家庭については職員の説明が十分でなかった点もあるかと思えます。申し訳ありません。今後は分かりやすく提示できるように工夫して舞い降ります。
	6 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	47	4	0	3		
	7 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	52	1	0	1		
	8 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	47	4	1	2		
	9 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	53	1	0	1		
	10 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	52	1	1	1	・計画書が遅すぎる。	・訪問支援に際して事前にご連絡がつかない事態等があり、事業所側のコンタクトが不十分なままお伺いすることになり結果、十分な支援を受けられていないのご意見を頂くことになったと考えます。申し訳ありません。ご相談の内容について、適宜各専門職とも相談できる体制は整えておりますが、不十分であったと考え、職員間の情報共有についても再度見直しを行います。
保護者への説明等	11 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	52	1	2	0	・こちらが相談してもごく一般的な事しか言ってくれなく、専門性が低いと思った。	
	12 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	47	4	3	1	・助けを求めても答えをもらえなかった。	
	13 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	51	2	2	0		ありがとうございます。今後も子どもさんのより良い生活を支えるために検討ができるようにさせていただきます。保護者の方とも十分に情報共有ができるようにしてまいります。
	14 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	49	4	1	1	・突然の相談にもわざわざ時間を作って下さり丁寧に聞いてくれた。	
	15 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	49	4	1	1		
	16 事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	48	5	0	2		
	17 保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	44	2	1	8	・共有できていない。 ・学校からのフィードバック、内容について話し合われたという旨が書かれていた。	・必ず訪問先とは話し合いを経て、訪問を終了しております。今回は利用された際に保護者の方への伝達が不十分であったことから、なされていないとの感想を頂いたと思われま。
	18 保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	51	3	0	1		各訪問先ともどのような話し合いがなされたのかも含めしっかりと保護者の方へもお返しできるようにさせていただきます。

	19	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	38	10	1	6	・通信の郵送は少ない。	訪問先での活動などは、中々活動についての報告には上げにくい所がありますが、事業所としての活動はホームページ上にあげさせていただいております。
	20	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	51	3	0	0		
非常時等の対応	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	32	6	1	9		訪問先では、子どもさんの体調等で訪問を見合わせることもありますが、できるだけ双方が気持ちよく受け入れていただけるよう対応させていただいています。
満足度	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	43	0	1	4	・久しぶりに会えたことを喜んでいる様子である。	子どもさんの家庭や療育の場面では見ない姿に、成長を感じることは職員にとってもとても嬉しい瞬間です。今後もそのような瞬間を各関係機関の方々のご協力の基、共有し、子どもさんの成長に繋がれたらと考えます。
	28	事業所の支援に満足していますか。	43	1	2	2	・保育所での子どもの様子を客観的に聞くことができるのでありがたい。	

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				
児童発達支援センターどれみ		R7 年 2 月 17日				
チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすく、取り入れやすいものですか。	13	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問児には子どもと一緒に観察しながら具体的に助言していただけるのでわかりやすい。 ・説明等は具体的にお話くださり、分かりやすい。取り入れることに関して難しく感じることもあった。 ・園巡回の時の支援員の方の説明・助言はわかりやすい。 ・具体的な助言や説明により、子どもの現状や支援の振り返り、見直しが明確となり、次への支援に対して、見直しをもってすすめていけることが多くある。 ・時間的な制約のある中でもいつも長きに渡り意見を頂くことができています。質問に対し具体的に伝えて下さっています。 ・この機会を増やしてほしいです。 ・理解しづらかったことの行動についてより専門的な視点で説明していただくことで具体的な関わりの道筋を掴むことができた。 	<p>ご意見ありがとうございます。また、時間のない中での対応ありがとうございます。今後もできるだけ、現場の先生方に分かりやすくお伝えできるよう努力してまいります。</p> <p>子どもさんの契約時期によっては年内でお伺いできる機会が少ない場合もございますが、訪問時以外にも疑問に感じる点があればいつでもご連絡を頂戴できましたらと存じます。</p>
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	13	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の子どもの動作から身体機能の発達段階など、専門的な知識で教えていただいているので助かっている。 ・園巡回の時の支援員の方の知識等には、満足している。 ・多面的な視点や専門的な知識を伝えていただき、子どもへの理解や知識が実践につながっていくことが多くある。 ・身体の発達や成長の段階、また身体の各部位の働きやそれぞれの関連性などわかりやすく教えていただいた。 	<p>今後も継続してお伺いした際に、役立てていただけるよう、訪問員一同研修等で新しい知識や技術の習得に、力を入れていきます。</p>
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	14	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような質問にも的確に納得いく回答をしていただける。 ・悩み等も含め、丁寧に答えていただいたり、適切な返答をしていただいたりしている。 ・質問に対して児の特性と身体の発達や行動に対する関係など具体的に回答していただけた。 	<p>子どもたちの発達について、訪問時には訪問員が各先生方に教えていただくことも多くあります。今後も必要な時に支援ができますよう、適時に訪問ができるよう調整をしております。</p>
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	11	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談ごとがあれば、来られた時に聞けるので安心できる。 ・巡回訪問については、困り事等についてアドバイスをもらえ、少し軽減した。具体的な支援方法(テンションが高い時など)を覚えて欲しい。 ・子どもへの理解が明確となり、次への支援が具体化され課題にむけて取り組みやすくなった。 ・専門家からの視点でお話しをして下さるので勉強になっている。 ・児のおかれている状況や見えづらかった発達の特性を理解することで見方や受け止め方が変わり、困りごとが軽減された。 	<p>一部訪問先の方には、具体的な方法をお伝えできていなかったのご意見をいただきました。力不足で申し訳ありません。子どもさんの支援方法の具体性については、各専門職の分野からお話することもあるため、不足を感じられることもあるかと思います。そのような際には、その場でお伝えいただくと訪問員の力にもなります。申し訳ありませんが、お声がけください。</p>

利用施設数

R7 年 12 月 20 日 15 回収数

5	事業所からの支援に満足していますか。	12	2	1	<p>・満足している。 ・連携を密にいただき、情報共有をさせていただくことで支援につながる事が多くあり、十分に満足している。 ・具体的な連携のシステムを作り、情報を共有したいと思っている。(ex.教室の見学等) ・年度はじめにアセスメントさせていただくことで支援計画の作成にも参考になり有難い。</p> <p>ご満足いただけなかった事業所の先生方には申し訳ありませんでした。職員今後の訪問のあり方についても検討させていただき、貴重な意見として承り、改善を図ってまいります。ご満足いただいている事業所からのご意見についても、質を落とすことなく訪問実施が継続できるよう努めてまいります。</p>
<p>その他のご意見</p>				<p>ご意見を踏まえた対応</p>	
<p>・いつもお世話になっており、ありがとうございます。支援員の方々には、助言や説明をいただき感謝しております。園は集団生活の場なので個別対応の範囲に限りはありますが、たくさんのお兄と共に過ごしている場として、今後も子どもたちの成長を促していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>・いつもありがとうございます。お迎えの時お待たせする事が多くあり、申し訳ありません。今後改善していくようにしていきます。</p> <p>・本児の発達を捉えて、生活の中で苦労している部分や課題などを適切に伝えていただき、今後の支援に繋がられました。保育の中で行っている支援についても評価していただき、具体的に話ができて良かったです。</p> <p>・「どれみ」を利用している園児の園の様子を観察していただき、「どれみ」での姿と合わせて話をさせていただきます。いつも具体的に、わかりやすく、丁寧に説明したり、助言をして下さり、特に悩み、迷っている事にも、的確にアドバイスして下さるので、担任や担当者は本当に喜んでます。</p> <p>・今後も訪問支援は続けて欲しいと思います。</p> <p>・子ども、保護者についての情報共有を密にしていきながら、実践や子ども、保護者理解につながる連携を今後も継続して行っていただきたい。</p> <p>・日頃、訪問や送迎をして頂いているので、何かあればすぐに聞けるという「顔の見える関係」が築けており、連携がとれている。</p> <p>・先日はありがとうございました。いろいろ教えていただき、今後の保育に活かさせていただきます。どれみでの様子を見せていただけるような機会があれば嬉しいなと職員と話していました。今後よろしくお願いいたします。</p> <p>・どれみさんの研修は職員が楽しみにしており、学ぶ楽しみを頂いています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>・いつもありがとうございます。訪問時には個々の様子を見て助言していただいたり、どれみでの様子を聞かせていただいたりしながら、具体的な支援方法を分かりやすく教えていただき、日々の保育、支援に活かすことができます。今後も連携させていただきながら支援をすすめていきたいと思います。</p> <p>・どれみさんと繋がったことで母と子両方の面からアプローチできる子育てが見つかり、安心することが出来ました。しかし、どれみさんでの本児の姿、様子など母親から少し聞く程度で全く知る術がありません。そのあたりをしっかりと共有していけたら、日々の日常の保育の中で”私達が出来ること”を学ぶことができたら、ありがたいと思います。小規模なので、少人数で本児に対しては丁寧に関わってきたつもりで成長も見られますが、在園している数年の間の大切な時間を職員間でも共有しながらより良い保育を探求していきたいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>・どれみさんに通っていない児に対しても相談にのっていただき、ありがとうございます。</p>				<p>お忙しい中アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。</p> <p>また関係各所の先生方からのお言葉に、職員一同ありがたく、嬉しい気持ちで受け取らせていただいております。今後も保育所等訪問支援を活用して頂いて良かったと子どもさんは基より、普段の支援に普請して頂いている先生方の力になれるよう、職員一同精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		どれみ		公表日			7年2月17日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・整備・運営	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	1	1	現在は教材教具は使用していない。	訪問先の先生方と共有ができる物を資料して説明ができる準備を次年度は進めていきたい。		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	1	現在は約150名の利用希望者に対して、職員2名で対応している。書類作成の時間も必要なので、次年度の調整に繋げていきたい。	利用人数について、一度適切な支援ができる訪問回数等の検討が必要である。		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2		支援に従事する職員で、訪問をしっかりと実施ができるよう、情報共有は随時こまめに実施できている。			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1		評価表は今年度からなので、来年度からは保護者の意向を踏まえて改善していきたい。		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2					
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2		今後実施を検討したい。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2			虐待防止研修・衛生研修等必要な研修を受講している。	今後も研修が受講できるよう調整していく。	
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2		従事する職員間で、アセスメントなどの共有やタイムリーな情報共有に努めている。	今後も同様の質で対応ができるよう情報共有する時間を取っていけるようにする。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2					
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2		事前の電話連絡や個別乳幼児作業部会において共有している。			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		従事する職員間で、アセスメントなどの共有やタイムリーな情報共有に努めている。			
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	1	標準化されたツールを用いたアセスメントはしていないが、訪問員の行動観察によるアセスメントを実施評価・支援に繋げている。			
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2		毎年事業開始の4月に方針等の確認を実施している。			
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		毎月会議を実施し、計画をたてて訪問を実施している			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2		訪問実施時には家庭からの情報等も含め共有して訪問を実施している。			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2		支援中も含め、気になることがあれば共有することとしている。他事業も含め共有している			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2		必要に応じて、訪問先の支援についての希望を聞くようになっている。			
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2		実施できている。				
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2		実施できている。				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2		実施できている。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2		実施できている。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		2	直接的には実施していないが、新しい就学先・就園先に訪問を実施し、実際に子どもを見て伝えることをしている。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2		実施できている。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2		サービス管理責任者が参加している。	
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	2		実施できている。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2		センターとして他の事業が実施している。	事業所として未就学児対応のものが基本なので、就学児保護者向けの内容も発信していきたい。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		実施できている。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2		実施できている。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		面談を実施して対応していている。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2		実施できている。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	1	1	訪問という特性上定期的という点では対応ができていない点がある。	センターの特性上、他の事業から情報が入ることもあるため、その際には対応ができるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		2		就学前の子どもたちへの対応が主になるので、就学児対応の物も検討していきたい。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		今年度は特に申し出はなかったが、対応できるようにしている。	必要に応じて保護者にも情報提供を行っている。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2		実施できている。	現在の状況を継続していきます。
訪問先施設への説明等	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		文書保管庫に保管ができている。	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2		対応している。	
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2		実施できている。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2		子どもの状況に応じて、対応できるようにしている。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		実施できているが、時間が空いてしまうことがあった。	できるだけタイムリーに情報共有ができるよう、計画的にFBを実施できるようにする。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		書類については保管庫にて保存している。	現在の状況を継続していきます。

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2		実施できている。	より専門性が発揮できるよう、今後も定期定期に研修等に参加するようしていきます。
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		事業所として対応のマニュアルを共有したり、消毒等カバンに常備している。	現在の状況を継続していきます。
非常時等の対応	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			事業所として対応しているが、事業としては該当せず。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		事業所として月1回研修を実施している。	現在の状況を継続していきます。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		事業所として月1回研修を実施している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			該当せず	